

イタリア統一 150 年記念講演会

安田侃さん イタリア生活 45 年を語る

北海道日伊協会は「イタリア統一 150 年記念講演会 安田侃が語るイタリア生活 45 年」と題した講演会を 2011 年 11 月 21 日に札幌テレビ塔の 2 階ホールで開きました。北を語る会（渡会純价会長）との共催で、両会員のほか市内や美唄などからのファンも含めて用意した 200 席はいっぱいになりました。安田さんは思いつくままに、といった自然体でイタリアと芸術について 90 分にわたって縦横に論じました。

安田侃さんは昨年 9 月 3 日から 11 月 20 日まで札幌市中心部に大型彫刻 22 体（既設を含む）を展示する例のない規模の『街に触れる』展を開催、閉幕翌日の撤去作業を前にした貴重な時間を特にさいて、講演要請にこたえてくれました。

会場は、侃さんの講演を聴くのにふさわしい、野外展の展示の中心になった大通公園と創成川を見下ろすことができる札幌テレビ塔 2 階会議室。ウィークデー

でもあり、駆けつけた会員、市民が落ち着けるように会員のゴスペルシンガー NATSUKI さんがウエルカムソング「虹と雪のバラード」など 2 曲を歌いました。

駐日イタリア大使からのメッセージを伊語教室講師のマリアンナ・チェスパさんが言語と日本語訳を読み上げ、講演に入りました。

侃さんは、舞台装置を担当したオペラ『蝶々夫人』の舞台から 100 年の伝統を破って日本を取り払ったこと、イタリアに渡って 3 年間は「スゲー、スゲーナ」と打ちのめされていたこと、「皮膚のにおい」を許さな



熱心な聴衆に丁寧に語りかける安田侃さん＝札幌テレビ塔2階ホール

い恩師ファッツィーニの芸術、ミケランジェロの『ピエタ』とイタリアの芸術至上主義、イタリア人とは？＝芸術と国民とアイデンティティーなど、丁寧に語りました。

終了後、展覧会カタログ、カレンダーにサインを求める列ができ、侃さんは丁寧に応じていました。隣室での交流会には 60 人が残ってワイングラスを傾け懇談、「KAN ワールド」の余韻を楽しんでいました。

（講演会の報告 2、3 面、会場アンケート紹介 4 面に）

サローネ・ディタリア 3 月 20 日（祝・火） =12 面参照

古賀弘人北大学名誉教授 さよなら講演会 「最近のイタリア映画」

全国の二期会は現在、東京二期会を出発根拠地として、北海道二期会、関西二期会、名古屋二期会、四国二期会、中国二期会、そして一昨年より大分二期会が新しく誕生して、七つの二期会が活動している。年に一度各地の二期会理事長はじめ代表役員が参集する全国二期会懇親会は、各二期会が活動発表をしながら難題を持ち込み話し合う場であり情報交換の機関でもある。私は懇親会が開かれた初回からの出席者で、中央の素晴らしい活躍ぶりに、参加するたび刺激されて帰札する。

地方の悩みはいつも同じで、やはり中央以外は会員男性のメンバーに欠ける事、資金の問題、組織の運営等々。

だが、東京、関西は人材豊富で事務局も専門分野で動いており、組織の大きさの違いに北海道二期会として戸惑う程。でも私は地元でスタッフはじめ歌い手もそれぞれの立場で成長している姿を報告する。

特に今年は、過酷な判断の報告をした。

昨年3・11大震災は、われわれが本番公演を翌日に控えG・Pとって本番同様の舞台上にいるところに飛び込んできた。勿論オーケストラもスタンバイ！教育文化会館が揺れる…とにかくG・Pを終了させるが翌日から2日間の本番を行うべきかどうか！…東京からイベントは全て中止しているが、北海道二期会はどうするのか…と問い合わせ。札幌交響楽団とすぐに相談。やらなければ！すぐに合意…涙出るほど心強かった！お客様が少しでも癒しの心を持って下されば…と。

そして本番当日、一晩の過酷なニュースで眠れないキャスト、スタッフたちは黙々と本番の時間を待ち続けている。耐えて頑張っているのが判るだけに、傍にいるのも辛かった。果たしてお客様達は会場にあらわれるのかな…ととても心配しながら。

結果は大盛会でお客さまも喜び、我々も判断は間違っていない事、そして音楽の無限なる素晴らしさに強く強く感動した。こう報告しながら、あの日がよみがえって仕方がなかった。

懇親会は私にとり貴重、そしてこの会議の

三部 安紀子

人生！音楽の旅 ⑫

二期会の懇親会

よみがえる3・11の公演決断

あと、毎年東京二期会オペラを皆で鑑賞する。今回はG・ヴェルディ作曲オペラ「ナブッコ」（を東京文化会館で。

キャストは全て日本人だが、指揮者、演出、美術、照明はイタリア人。イタリア・パルマ王立歌劇場との提携で創立60周年の記念公演の一環として上演され、力強く歯切れ良いタクトは、やはりイタリア人の血であろうと思った。

まず指揮者は25歳のアンドレア・バッティストーニ。これが作品の冒頭の序曲で既にブラボーの拍手。重厚ともいえるドラマの旋律を強烈に表現した素晴らしい指揮者であった。

また演出家はクラウディオ・アバドの子息ダニエル・アバド。無駄のないオーソドックスで緻密な演出は品位があり、音楽にとっても忠実なのが好感を持たれた。

3幕で歌う有名な合唱曲「行け、わが思いよ、黄金の翼に乗って」は合唱団が舞台上で円の塊で歌い、凄い拍手に応じてその円が次第に広がりアンコールへと再び旋律が流れ始めたときは、鳥肌立つ程の感動を覚えた。



公演プログラムの表紙

ヴェルディはこの「ナブッコ」の作曲の頃、2人の幼い子供と妻を2年足らずの間に相次いで亡くすという悲劇に見舞われて失意のどん底にあった。そんな時作曲を頼まれたのに意欲が湧かなかったが、台本にあった「行け、わが思いよ、黄金の翼に乗って」の詞に魅され、そこから勇気が出てこの作品を作曲し大成功を収めたのである。

この曲はイタリアの第2の国歌とされており、人々はヴェルディの天才的才能を讃え、心の中の大切な歌として歌うのである。どんなに辛く苦しい中でも勇気と希望を持って、前向きに生きるというこの曲を！！

(会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長)

サローネ・ディタリア（イタリア懇話会）のお知らせ

古賀弘人北大名誉教授のさよなら講義



「最近のイタリア映画」

3月20日（祝・火）午後4時から6時（終了後 懇親会）
ブライツサッポロホール

中央区南1条東2丁目（本通北向）エメラルドグリーン大通ビル2F

会費 1,200 円（お弁当・飲み物）。

非会員で、SALONEのみご参加希望の方は、300 円。

古賀弘人先生（北海道大学名誉教授。伊語・伊文学専攻）

白老町出身。東京外語大卒、早川書房、東京外語大講師を経て1991年北大に着任、助教授、教授として20年にわたって教鞭をとられました。このたび北海道を離れることとなりましたが、特に当会のために機会を作ってくださいました。

訳書に『チェッリーニ自伝』（岩波文庫）、

アントニオ・ブタッキ『ベアト・アンジェリコの翼にあるもの』（青土社）など。

申し込みは 北海道日伊協会事務局へ 電話 011・241・0345 FAX011・241・0567

Mail : shin-y0123@brightsapporo.com

開催中

喜井 豊子 革絵個展

「M,C,エッシャーとジャポニズム」

3月14日～22日 10～18時（20日火曜日休廊）

茶廊法邑ギャラリー Tel.:011-785-3607

東区本町1条1丁目 駐車25台可

講演 ①「M,C,エッシャー作品と浮世絵」

17日（土）15時から

②「M,C,エッシャーの父 G,A,エッシャーはお雇い外国人」

18日（日）15時から



北斎とエッシャーを重ねた15個の頭部

編集後記

年を越してしまいましたが、昨年後半の講演会とサローネの報告をお届けします。協会のために貴重な時間を割いてくれた安田侃さんに感謝。30年前、ローマで取材したことを思い出しながらいよいよ司会をつとめさせていただきます▼経済破綻に陥ったイタリアが、マリオ・モンティ新首相によって自国の立て直しのみならず欧州連合の安定化に力を発揮しています。ベルルスコーニ前首相とは対照的に地味な経済学者ですが、年金受給年齢引き下げ、消費税2%引き上げなどの財政再建策と成長政策をまとめ、的確な発言がメルケル独首相らの欧州首脳への信頼を呼んでいるそう。近く来日、3月28日東京・日経ホールで講演の予定。世界を元気にするスーパーマリオの登場はうれしい限り ▼初めてのサローネ講師で活躍したマリアンナさんは、北大大学院の難関を見事突破。ブラボー（金子国彦）